【小学校・６年・国語・「やまなし」】

育成を目指す資質・能力　　**Ｃ２（協働での意見整理）**

Ｃ－エ　人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の工夫を考えたりすることができる。

ＩＣＴ活用のポイント　【活用したソフトや機能】　ホワイトボードソフト

ホワイトボードソフトの付箋機能を活用し、「やまなし」の二つの幻灯を対比することで、作品の世界観を捉えることができる。

学習の流れ

- 「かわせみ」と「やまなし」を対比するために、観点ごとに付箋でまとめる。
- 「かわせみ」と「やまなし」を比較する。
- 五月と十二月、それぞれの幻灯がどんな世界なのかを考える。
- 全体で共有し、自分の学びを振り返る。

事例の概要

本実践は、文学的文章を読み、作品の世界観に関する自分の考えをまとめることを言語活動として設定した事例である。

作品の世界観を捉える手立てとして、ホワイトボードソフトの付箋機能を活用し、作品の中に登場する「かわせみ」（五月）と「やまなし」（十二月）を対比した。それぞれの児童がどちらかを選んで付箋を使って考えをまとめた後、全体用のホワイトボードソフトにそれぞれの考えを貼り付け、前方の２つの大型テレビを使って、「かわせみ」と「やまなし」の世界観を対比させた。その際、観点（谷川の様子、かにの様子、色や動き）ごとに付箋の色を分けることで、視覚的にも対比が容易になった。

児童は友達の考えも参考にしながら、「かわせみ」と「やまなし」がそれぞれどのようなものかについて改めて深く考え、それを基に２つの幻灯の世界観について、自分の言葉で表現することができた。

【小学校・６年・国語・やまなし】

【事例におけるＩＣＴ活用の場面①】

【事例におけるＩＣＴ活用の場面②】

ＩＣＴ活用のポイント

本題材では、ホワイトボードソフトの付箋機能を使って「やまなし」の二つの幻灯を対比することで、作品の世界観を捉えることを目的として単元を構想した。

ホワイトボードソフトの付箋機能を使って五月と十二月の幻灯を対比して捉えることで、二つの重要な対比（「かわせみ」と「やまなし」）があることに気付くことができた。観点ごとに付箋の色を決めておいたので、視覚的にも対比を容易に行うことができた。

また、児童が共同編集した全体用のホワイトボードを、２つの大型テレビに提示することで、「かわせみ」と「やまなし」の二つの対比を全員で確認し合うことでできた。さらに、「かわせみ」と「やまなし」を対比させ、それぞれの幻灯の世界はどのような世界なのか考えさせた。

教師がすべての児童の状況をリアルタイムで把握することで、適切な支援や指示を行うことができ、児童の考えを深めたり広げたりすることにつながった。

ＩＣＴ活用事例　Ｃ２（協働での意見整理）

小学校６年　国語　「やまなし」

使用機器：タブレット、大型テレビ　　使用アプリ：ホワイトボードソフト、表計算ソフト

〈ＩＣＴ活用のポイント〉
①ホワイトボードソフトの付箋機能を活用することで、「やまなし」の二つの幻灯を整理することができる。
②表計算ソフトに感想を書き全体で共有し合うことで、作品に対する新たな視点を獲得することができる。

１　単元の目標

ホワイトボードソフトの付箋を使って、「五月」と「十二月」の場面を対比することで、作品の世界観を捉えることができる。

２　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比喩や反復などの表現の工夫に気が付いている。　（（１）ク）	①「読むこと」において、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。　（C(１)エ） ②「読むこと」において、文章を理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。　（C(１)オ）	①表現や構成等に注目して作品世界を捉えることに粘り強く取り組み、学習の見通しを持って自分の考えを書こうとしている。

３　単元について

本教材は、二項対照の妙が鮮やかな文章で、全文をそれが貫いている。「五月」の中には、明暗に加え、静動の対照を読み取ることができる。そして、章そのものが対比項目となっている。「五月」と「十二月」は対比的な世界である。

そこで、この教材では、タブレットを効果的に使用することを考えた。『やまなし』の世界観を少しずつ明らかにしていくためには、他者との交流が大切になる。授業の終わりには毎時間タブレットを使用し、児童の学習感想を全体で共有する時間を設ける。その際使用するのが表計算ソフトである。１つのファイルに全員が書き込むことで、学習感想を共有することが容易になる。また、なかなか感想が書けない児童にとっても、他の児童の考えも参考にすることができる。これらの活動は、『やまなし』を読み解くうえでの新たな視点を獲得することにつながるだろう。

また、ホワイトボードソフトの付箋機能を使って二つの幻灯を整理する活動も行う。言葉によって付箋の色を変えたり、自由に付箋を動かしたりすることで、視覚的に理解することが可能となるのではないか。最終的には、「かわせみ」と「やまなし」を付箋で比較することで、この作品の世界をより深く理解することができると考える。

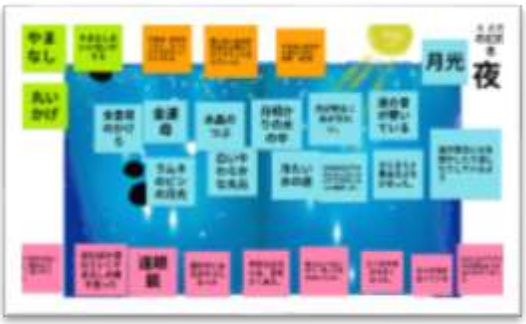
4　指導と評価の計画（9時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	①単元の扉を見て、学習への意欲を高め、作品について想像できることを話し合う。 ②「やまなし」を読み、「作品の世界を捉えて、自分の考えを書こう」という単元の目当てを設定し、学習計画を立てる。	①本文や作者への興味が増すように、話し合う内容に幅をもたせ、想像を膨らませることができるようにする。 ②学習の見通しをもたせるため、教科書のP124を参考にし、学習計画を立てる。	［主体的に学習に取り組む態度①］観察・ノート 単元のめあてや学習計画を理解し見通しを持って読もうとしている様子の確認
2	③「五月」「十二月」で描かれている幻灯を、簡単な絵や図に表す。	③タブレットのホワイトボードソフトを使い、表した図と文中の言葉とを照応したり、同じグループで見合ったりする中で、児童全員が様子や出来事を視覚的に捉えることができるようにする。	［知識・技能①］ 観察・ホワイトボードソフト 語のリズムや表現の持つ美しさ、比喩などの表現上の特徴に気付いていることの確認
3	④「イーハトーヴの夢」を読み宮澤賢治の生き方や考え方について話し合う。	④宮澤賢治の言葉や行動について節目ごとに整理し、生き方や考え方を捉えられるようにする。	
4	⑤「五月」の世界について、登場人物やものの動き、情景等について、ホワイトボードソフトの付箋でまとめる。	⑤それぞれの表現をどう捉えたか交流する場面を設け、考えを深められるようにする。	
5	⑥「十二月」の世界について、登場人物やものの動き、情景等について、ホワイトボードソフトの付箋でまとめる。	⑥それぞれの表現をどう捉えたか交流する場面を設け、考えを深められるようにする。	
6	⑦「五月」と「十二月」の場面を比べ、その違いについて読み取ることができる。	⑦対比する上での観点を幾つか示し、前時までにホワイトボードソフトでまとめた付箋を活用する。 重要な対比（「かわせみ」と「やまなし」）に気が付かせる。	
7	⑧「五月」に登場する「かわせみ」の様子と「十二月」に登場する「やまなし」の様子を付箋でまとめる。 「かわせみ」と「やまなし」を比較して、それぞれの幻灯の世界について考える。	⑧「かわせみ」と「やまなし」の違いを話し合う場を設け、題名の意図に迫っていけるようにする。	［思考・判断・表現①］ ワークシート 「かわせみ」と「やまなし」を比較して、感じたことや考えたことの確認
8	⑨なぜ、作者が「やまなし」という題にしたかを考える。 ⑩宮澤賢治が「やまなし」に込めた思いについて考え、文章にまとめる。	⑨「イーハトーヴの夢」の叙述を基に、自分の考えを書くようにさせる。 ⑩自他の共通点や相違点に着目するように促す。	［思考・判断・表現②］ ワークシート 作者が作品に込めた思いについて、叙述に基づいてまとめた考えの確認
9	⑪書いた文章をグループで読み合い、感想を交流する。 ⑫学習を振り返る。	⑪「ふりかえろう」「たいせつ」「いかそう」で身に付いた力を確認させるとともに、「この本を読もう」で読書を広げる。	［主体的に学習に取り組む態度②］ワークシート 単元全体を振り返り、作品世界を想像しながら積極的に読書をしようとしているかの態度の確認

５　ＩＣＴの効果的な活用について

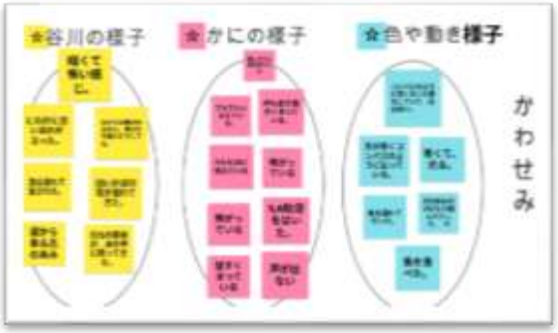
まず、２時間目にタブレットのホワイトボードソフトで五月と十二月の幻灯を描いた。下絵に教科書の挿絵を挿入し、その上に児童が教科書の叙述を基にしながら、タッチペンで絵を描いた。タブレットで描くことで色が鮮明になり、とてもわかりやすくまとめられた。また修正するのも簡単であり、児童は熱中して書いていた。

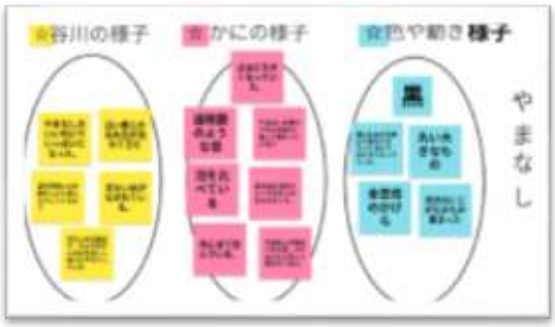
４時間目と５時間目には、五月と十二月の幻灯を、登場人物やものの動き、情景等について、ホワイトボードソフトの付箋でまとめた。その際、シートに２時間目に自分が描いた幻灯を挿入した。児童は自分が描いた下絵の上に付箋を並べることで、それぞれの幻灯の世界観をより深く理解することができた。



６時間目には、前時までにホワイトボードソフトでまとめた付箋を活用し、五月と十二月の幻灯を対比して捉えることで、２つの重要な対比「かわせみ」と「やまなし」があることに気付くことができた。観点ごとに付箋の色を決めておいたので、視覚的にも対比を容易に行うことができた。

７時間目にはさらに、「かわせみ」と「やまなし」を対比させ、それぞれの幻灯の世界はどんな世界なのか考える授業を行った。対比する観点ごとにホワイトボードソフトの付箋の色分けをすることで視覚的にも対比をすることができた。





単元を通して、ホワイトボードソフトを効果的に使えたと思うが、タブレットを使うことで時間がかかった面も否めない。慣れもあるとは思うが、操作の個人差、接続の不安定さ、全員が共通のシートを使用するために発生する不具合の修正等、挙げれば切りがない。しかし、児童はとても意欲的に学習に臨めた。ホワイトボードソフトの付箋を使うことで、対比の学習を効果的にできたのではないかと思う。

６　評価の実際

ほとんどの児童がＢ評価（二つの幻灯「五月」と「十二月」は、どんな世界なのか、かわせみとやまなしの対比をもとに考えることができる。）を達成することができた。